

<実践報告>山形県立山形工業高等学校

外部講師講演会				
日時／会場	令和7年10月23日(木)5・6校時／13:30～15:20			
対象者及び人数	学年・クラス等	全校生	人数	567名
講師	氏名	奥山 慎一郎 氏	職種	緩和ケア医
	氏名	黒田 昌宏 氏	職種	がん経験者
指導内容 ※○をつける	○	ア がんという病気	○	カ がんの治療法
	○	イ 我が国におけるがんの状況	○	キ がんの治療法における緩和ケア
	○	ウ がんの経過と様々ながんの種類	○	ク がん患者の「生活の質」
	○	エ がんの予防	○	ケ がん患者への理解と共生
	○	オ がんの発見とがん検診		
講演の概要				
奥山慎一郎先生より、「もし残された時間が1年であればどうしますか」という導入のもと、がんの基礎知識や治療法をお話しさうだけでなく、実際の患者さんの事例を交えながら、がんと向きあうことの重要性や、患者さん一人ひとりの生き方の尊重について、お話ししていただいた。また、黒田先生からは、ご自身の実体験に基づきお話をいただき、がん患者として社会と「共に生きる」ための心構えや、「今を生きることの大切さを深く考えさせる貴重な時間となった。				
講師の方へお願いしたこと				
がんの基礎知識、また治療法や緩和ケアについて幅広い視点からお話しいただくとともに、特にがんと向き合う人々への理解を深め、自分と他者の生命や生き方を尊重することの大切さを伝えるご講演をお願いした。 また事前に、配慮の必要な生徒について、情報を共有した。				
児童・生徒の実態及び必要な配慮等				
講演前に、担任を通じて家族、親族の他界や療養経験の情報収集を行い、聴講に不安がある生徒は相談するよう配慮した。また、担任より個別に確認をしていただいた生徒もいた。				

<実践報告>山形県立山形工業高等学校

研究授業				
日時／会場	令和7年10月27日(月)5校時／13:30～14:20			
対象者及び人数	学年・クラス等	1年1組	人数	41名
授業担当者	保健体育科教員			
指導内容 ※○をつける	○	ア がんという病気	○	カ がんの治療法
	○	イ 我が国におけるがんの状況	○	キ がんの治療法における緩和ケア
		ウ がんの経過と様々ながんの種類	○	ク がん患者の「生活の質」
	○	エ がんの予防	○	ケ がん患者への理解と共生
	○	オ がんの発見とがん検診		
授業の概要 (主な学習内容)	導入5分	がんの治療法、緩和ケアについての復習。 本時の学習のねらいを知る。		
	展開42分	<p>【本時のねらい】がん患者の想いを学び、がん患者と共に生きる社会を考える。</p> <p>ワークシートを活用し、グループ学習を行う。 ギャラリーウォークを行い、様々な意見、考えを見ることでさらに深い学びにつなげる。 (発問①)がん患者の方は何を望んで、何を求めていると思うか。 (発問②)がん患者の方やその家族が暮らしやすい社会とはどんな社会でしょうか。</p>		
	まとめ7分	これまでの学習内容を振り返り、家族の方へ向けたがん受診メッセージカードを記入する。		

<実践報告>山形県立山形工業高等学校

事業の成果	今後に向けて
<p>「がん」という病気の基礎知識や多様な治療法にとどまらず、がんと向き合う人々の理解や、それぞれの生き方を尊重することの重要性について、学びを深めることができた。</p> <p>特に講話では、「がん」を自分自身の問題として捉え、生命の尊厳について深く考える機会となった。</p> <p>また授業では、この講話の内容を基に、がん患者の方々が抱く想いや、共に支え合って生きる社会のあり方について考察を深めた。その結果、がんの問題を単なる知識ではなく、自分事として捉え、向き合うことができた。</p>	<p>今回の専門的な講話と保健体育の授業を通じて、「がん」というテーマの重みと生徒に伝えるべき内容の深さを改めて認識した。しかし、既存の保健体育の授業時間内で、生徒の理解を深めるレベルまで指導を完結させるのは困難だと感じた。</p> <p>専門家による講話は非常に貴重な機会だが、毎年の実施は予算や講師の都合上、負担が大きいため、数年に一度のサイクルで講話を組み込んだり、他教科との連携を図るなど、より効果的で継続性のある指導体制を工夫・確立していく必要があると考えた。</p>

事業の様子
<p>講演会</p>  <p>授業実践</p>  